

COP10グリーンマッププロジェクト 暮らしの中の生物多様性 グリーンマップ



グリーンマップとは?

自分たちが住んでいる地域の環境に良いところや悪いところを調べて、世界共通の絵文字(アイコン)を使って環境マップをつくる活動のことです。1992年のブラジルでの地球サミットをきっかけに、ニューヨーク在住の環境デザイナーのウェンディ・ブラウアさんが始めた活動で、現在55ヵ国、650以上の地域で広がる、市民による国際的な環境プロジェクトです。愛知では、2005年「愛・地球博」の県民参加プロジェクトにグリーンマップが採用され、2002年11月に活動が始まりました。

↓グリーンマップの詳しい情報はこち
<http://www.greenmapjapan.org/>



グリーンマップアイコン(一部) ※写真付きで掲載している情報のみのアイコンを紹介しています。全てのアイコン(169個)の紹介は[こちら](http://www.greenmapjapan.org/)→ http://www.greenmapjapan.org/



暮らしや地域をみつめれば、人と自然…命のつながりがみえてくる!

毎日の暮らしや、住んでいる地域をちょっと意識してみつめてみると、たくさんの発見に出会います。身近なところにある自然や通りの風景から、毎日の食べ物や着る物から、使う道具から、伝統技術や文化から、ふと感じることを通して、多くのつながりの中で私たちが生きていることに気づかされます。

今回、名古屋でCOP10(生物多様性条約第10回締約国会議)が開催されることをきっかけに、多くの人たちから、そんな気づきの1コマを寄せいただきました(投稿情報316件)。このマップは、その中から抜粋して作成されたグリーンマップです。

